

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業用)

①事務事業名		担当部課	部課コード	120300	TEL	2998-9377
事業コード	120302	所沢村山線道路築造事業		計画道路整備課		
開始年度	13	年度	→	終了年度	年度	
②事業の概要		事業の種別	<input type="checkbox"/> 土地利用 <input checked="" type="checkbox"/> 土木建設 <input type="checkbox"/> 建築 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度			
根拠法令		都市計画法、道路法				
分野別計画・指針		所沢市街づくり基本方針(補助幹線道路)				
関連・類似事業		北野下富線道路築造事業(当課)、松葉道北岩岡線道路築造事業(当課)				
総合計画の体系		章	街づくり	節	道路	基本方針
事業開始の背景・目的(どのような経緯で、どのような効果を目指して実施しているのか)		所沢駅西口へのアクセスは県道久米所沢線の1路線しかなく、周辺の道路は慢性的に渋滞していた。都市計画道路所沢村山線を整備することにより、所沢駅周辺道路の交通渋滞の緩和を図るものである。また、一部の区間について電線共同溝により無電柱化及び電線類の地中化を行い、快適な景観形成と安全な歩行空間を確保する。				
③事業の内容						
事業の内容・実施方法(最終的にどのような状態を生み出そうとしているのか、そのためにどのような方法・手段を用いるのか)						
所沢村山線は、所沢駅西口から都市計画道路飯能所沢線を結ぶ延長1,430m、幅員20mの道路で、西口周辺道路の慢性的な交通渋滞の緩和を図る。これまでに、所沢駅西口駅前広場から県道東京所沢線駒形交差点までの延長700mが開通しており、駒形交差点から飯能所沢線まで延長730mの区間について埼玉県と区間を分けて整備するもので、H25に測量を実施して、H26より県では計画道路用地の取得を開始した。これからも都市計画道路の建設を進め所沢駅周辺道路の交通渋滞の緩和を図るとともに、歩道のバリアフリー化を図り、歩行者の安心安全を確保する。						
事業開始後の環境変化(人口や需要見込み等の社会経済情勢の変化、自然環境の変化等)とそれに対する対応						
土地価格の変動。これに合わせて事業期間や事業費など適切に対応している。						
事業費概要(千円)		事業開始時の総事業費予定額	14,124,065	事業の進捗率	平成28年度の事業内容及び平成29年度以降に予定している事業内容の概要	
		事業費累計(平成27年度まで)	7,130,993	50%	平成28年度は、県施工区間の整備状況を踏まえ、関係機関との協議・調整等を行う。	
平成28年度実施計画における事業費		平成28年度	0	50%	平成29年度以降については、優先する他の2事業(北野下富線道路築造事業及び松葉道北岩岡線道路築造事業)の進捗状況及び県施工区間の進捗状況を斟酌しながら、鉄道の立体交差を含む道路予備設計、平面交差設計、交通量調査・推計を行い事業費及び期間を算定して、平成31年度には事業認可を取得、早期完成を目指す。	
		平成29年度	149,232	52%		
		平成30年度	500,000	55%		
		現時点での総事業費予定額	14,124,065	平成	年度終了予定	
④経費						
《会計種別》		一般会計	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)	平成 28 年度 (千円)	
予算現額			7,370	0	0	
決算(見込み含む)			7,128	0	0	
(非常勤特別職員)		(臨時任用職員)	(人)	(人)	(人)	
正規職員人件費			0.85人	7,413	0.80人	6,928
事業費合計			14,541	6,928	6,928	
財源内訳		一般財源	9,541	6,928	0	
		国・県支出金			0	
		その他()	5,000		0	
⑤成果						
成果指標		項目名	項目説明	単位	H 26	H 27
		安全性・利便性向上のための都市計画道路の築造・整備率	交通の円滑化や安全性、都市防災機能の向上に有効な都市計画道路の整備完成状況を、事業費の割合により示す。	千円	目標値	7,370
					実績	14,372
					H28目標値	0
					将来目標	7,000,000
目標達成状況		どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率	51
成果指標設定理由・目標値の考え方		所沢駅西口から県道東京所沢線駒形交差点までの区間が開通し、さらにその区間内の一部について、歩道のバリアフリー化や景観・防災性の向上を目的とした無電柱化及び電線類の地中化を実施したことにより、所沢駅周辺道路の交通渋滞が緩和し、安全で快適な通行空間の確保を実現した。同様に今後、駒形交差点から飯能所沢線までの区間の整備完了により、所沢駅周辺道路の更なる交通の円滑化を促進するとともに、快適な景観形成と安全な歩行空間を確保し、都市防災機能の向上につながるため、周辺住民の安心・安全を確保するものである。				
⑥評価						
事業計画見直しの必要性		<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要あり⇒ <input type="checkbox"/> 見直しの必要なし⇒		理由及び今後の方向性		
		所沢駅西口駅前広場から県道東京所沢線駒形交差点までの延長700mが開通しており、電線共同溝により無電柱化及び電線類の地中化を行い、H26の歩道整備で上記区間は完成となった。現在、県により、所沢村山線の整備予定区間内の一部の用地の取得を進めていることから、県の整備状況を踏まえ、また本市の他の優先的に整備する路線の進捗状況を加味し、今後、事業計画を見直す必要がある。				
総事業費見直し		<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要あり⇒ (<input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了) <input type="checkbox"/> 見直しの必要なし				
上記評価の理由		本路線は昭和28年都市計画決定され、総延長1,430mのうち延長700mの区間が供用している。残りの延長730mについては、埼玉県と所沢市により、区間を定めて整備を行うもので、本路線と接続する飯能所沢線第2工区の一部区間について、H27暫定供用が開始したことから、整備効果を高めるため早期の事業化を計画している。開始時期や事業期間により事業費が変更となることから総事業費の見直しを行うものである。				
評価日		H27.8.10	評価者職氏名		建設部計画道路整備課 課長 村上 和雄	
⑦環境影響						
有益な環境影響		1-1地球温暖化の防止	4-1大気汚染の防止	有害な環境影響を及ぼす原因活動	緑の減少・都市計画道路の整備	規制を受ける環境法令等
						緊急事態
						有